

Social Empathy Index: A Psychometric Study and Group Comparisons among Japanese Medical Undergraduates

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 孫, 時妹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002737

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2450 号

Social Empathy Index: A Psychometric Study and Group Comparisons among Japanese Medical Undergraduates

社会的共感指数日本語版の信頼性及び構成概念妥当性の検証: 医学生を対象とした横断調査を用いた分析

孫 時姝 (そん ししゅう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

本研究では、社会的共感力尺度 (Social Empathy Index: SEI) 日本語版を開発し、信頼性や妥当性等の尺度特性について検討するとともに、医学生を対象とした横断調査により、社会的共感力に影響する因子について明らかにした。社会的共感力は、Segal et al. によって提唱されたもので、異なる文化や社会経済状況にある人々を理解し不平等や格差について洞察する力を指す。その力を測定するのが社会的共感力尺度 (SEI) である。我々は SEI の調査項目を日本語に翻訳し、さらにその逆翻訳を行い、Segal の承認を受けて日本語版質問紙を作成した。都内の私立大学医学部 1、2、4 年生 414 名にアンケート調査を実施し、279 名から回答を得た (回収率 67.39%、有効回答率 61.59%)。因子構造を明らかにするため探索的因子分析を行い、SEI という尺度が測定すべき概念や特性を適切に反映しているという妥当性、すなわち構成概念妥当性を検証した。さらに、すでに差が存在することが知られているグループ間の違いが新たな尺度によっても示されることで明らかにできる妥当性、すなわち既知グループ妥当性についても検討した。

因子分析では「マクロ視点取得」「認知的共感」「感情制御」「感情反応」の 4 因子を認めた。これらの累積寄与率は 46.59% であった。各因子の α 係数は 0.66 から 0.92 であり、折半法では 0.94 であった。SEI に有意な差を認めたのは、性別 ($p < .001$)、中高生時代のボランティア経験 ($p < .01$)、将来の進路選択 (people-oriented specialties vs others; $p < .01$)、医学分野以外の読書や芸術への関心 ($p < .05$)、海外留学経験 ($p < .05$)、学年による違い ($p = .001$)、今後のボランティア活動への参加意向 ($p < .001$)、健康の社会的決定要因 (Social determinants of health: SDH) に関する知識と理解 ($p = .007$) であった。

本研究は、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版が、日本の医学生の社会的共感力を測定する尺度として構成概念妥当性と信頼性を有することを示した。共感力は経験や学修によって後天的に獲得できることが知られている。社会的共感力は格差や不公正について理解し洞察する力であることから、健康格差をもたらす社会的要因 (SEI) の学修によって高めることができると推測される。近年、日本では、COVID-19 の影響もあり貧困や孤立、失業など、健康格差の原因である社会的要因 (Social determinants of health: SDH) が顕在化し、SDH 教育が進められている。これまで、SDH 教育の評価は、提出課題などに基づき質的に行われることが多く、プログラム評価を定量的に継続して行う方法は確立されていない。本研究は、社会的共感力尺度 (SEI) 日本語版が SDH 教育プログラムの効果を測定する指標となりうることを示唆する。